

## 新刊紹介

### 世界の砂図鑑：写真でわかる特徴と分類

須藤 定久 著

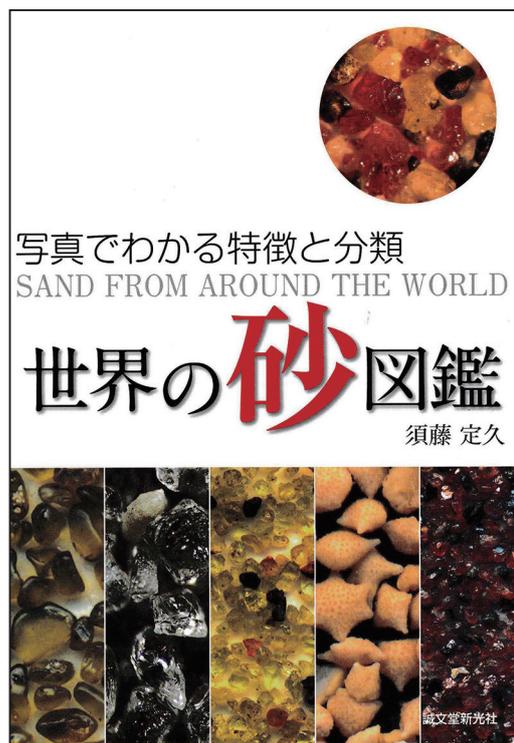
誠文堂新光社  
2014年2月28日(初版)  
サイズ：21 x 15 x 1.3 cm  
カラー版 223 ページ  
ペーパーバック  
ISBN：978-4-416-11436-0  
価格 2600 円+税

著者の須藤定久氏は、工業技術院地質調査所入所以来、砂や骨材についての研究を行ってこられた。2008年の退職後も産総研地圏資源環境研究部門鉱物資源研究グループのテクニカルスタッフとして活躍されている。

須藤氏は、故有田正史氏と一緒に「砂と砂浜の地域誌」シリーズを地質ニュースに全27回連載されていた。当時、地質ニュース編集委員をしていた私は、同シリーズの編集を担当させて頂くことが度々あった。地質ニュースは2011年3月号をもって発行休止となったが、彼らによる連載は2010年10月号(No. 674)まで継続されたと記憶している。

私は碎屑性堆積学もしくは堆積地質学が専門であり、これまで30年間は砂や砂岩を研究対象として取り扱うことが多かった。砂の定義は、1/16～2mmの大きさの粒子群である。一見地味にも見えるが、地質や環境を大きく反映し、地域的な特徴がある。人間社会への係わりもたいへん深く、例えばコンクリートの骨材として砂が無ければ現代社会は成り立たない。また、先日世界遺産に登録された富士山に三保の松原が含まれた経緯をみても、砂浜は日本の景観の一部であると世界中の人達からも見られていることがわかる。

この世界の砂図鑑では、「砂とは何か？」の解説から始まり、日本のみならず世界に存在する多くの砂の中から特徴的なものを300試料取り上げて、美しい砂の写真とその成因および特徴をわかりやすく紹介している文字通りの「砂の図鑑」もしくは「砂の教科書」である。本書は7章



からなり、第1章“砂とは何か？”，第2章“日本の砂”，第3章“世界の砂”，第4章“砂を調べる”，第5章“砂漠の砂、あれこれ”，第6章“役に立つ砂”，第7章“鳴き砂の話”から構成されている。本書中に使われている文章や写真の多くは、前述した地質ニュースの連載記事が元になっているらしく、その後、須藤氏が丁寧に編集しなおされたのであろう。

本書の楽しみ方は人によって様々あると思うが、個人的には、この図鑑を片手に、各地の海浜を散策するのが一番面白いと思う。ところで、2014年3月に横浜で開催された気候変動に関する政府間パネル(IPCC)38回総会の報告に基づいた最新の環境省の予測によると、21世紀末まで現在の地球温暖化が継続すれば、海面が60～63cm上昇し、日本を取り巻く砂浜の85%が海岸浸食によって失われると推定されている。その点において本書は、今後失われる可能性が高い我が国を取り巻く美しい砂や砂浜に対して、我々にその価値を投げかける啓蒙の書とも言えよう。

(産総研 地質情報研究部門 七山 太)